

「災害に強い市民づくり」

平成12年11月22日、家に届いた1通の合格通知、それは「生まれ住み慣れた街を災害から守りたい」と思い受験した合格通知でした。

その頃は「消防は火災が発生すればいち早く現場に到着し火を消し、救急の要請があればより早く市民を病院まで運んだらええんや」と安易に考えていました。やがて消防学校を卒業し、緊張勤務が続く中、早朝の起床ベルと同時に入電した建物火災がありました。

これが初めて出動した火災現場であり、私は急いで消防車に駆け込み、現場に到着し火災に直面してみると何をしたらいいか分からず、先輩について放水するのがやっとでした。

ようやく火災が鎮圧し周りを見渡すと、自分の家が燃えてしまって困惑されている方や、自分の家は大丈夫かなと見ておられる方に気づきました。

私は市民の悲しむ顔を見て、今まで「災害現場を多く経験したい、早く現場に出たい」という思いだけが大きくなり、災害に遭われた人の気持ちをまったく考えていなかったことを恥ずかしく思いました。

それ以来、自分の中で、消防、特に防災に対する意識が大きく変わり、数多くある消防業務の中で、火災が起こらないよう市民の家を一軒一軒訪問する「一般家庭立ち入り検査」は重要であると考えようになりました。

最近、テレビや新聞等で消火器の市民への不法販売が取り上げられてはいますが、「消防署です、火の元点検に来ました」との挨拶に、市民の方からは「いつもごころうさんやね」とやさしい言葉が返ってきます。これも、今まで築いてこられた先輩方による市民から消防への厚い信頼、信用があるからだ実感しました。

日頃私達は、消防団の協力を得、またホームページなどにより火災予防の啓発に努めていますが、なかには「今まで私の家では火事が起こったことがないから私の家は大丈夫」といった防火意識の低い方もおられ、焚火の延焼や、油ナベ火災にみられるとおり、火の不始末や消し忘れなどによる「うっかり火災」があとをたたない現状にありま

す。

それでは、火災が少しでも減るように、また今まで以上に市民の防火意識を高めるためにはどうしたらよいのでしょうか？私なりに考えてみました。

例えば、消防による一定の防災教育を受けた市民を「防災リーダー」として認め、救急講習の受講者と同じように修了書を交付し、その方達が火災予防運動などの機会を利用して市民の防火意識向上をはかるのはどうでしょうか？

消防機関からの呼びかけだけでなく、市民から市民への呼びかけ、市民による市民への火災予防啓発の場を多く設けるのです。

自然災害や大規模災害には消防機関だけの対応は難しいと思われ、市民協力が必要です。

今、市民に必要とされるのは「災害に強い市民」、つまり災害から自分の街は自分で守るという強い意思を持ち行動することではないでしょうか？

そのためには、消防が市民・地域にもっと密着し、心強い存在として信頼を得ることが必要だと思います。

そして、市民との信頼関係を今まで諸先輩方が築いてこられたように、私はさらに住民の中に溶け込み、より市民に身近な存在としてその絆を結んでいきたいとおもいます。

「災害に強い市民づくりを目指して・・・。」